

朝鮮の2024年

2024年の幕が開けた。

『社会主義強国を建設する』という現実的な目標に則った5か年計画の3年目を朝鮮は、偉大な変革の年と位置付け、4年目遂行の具体的な目標を掲げた。

周知のとおり、朝鮮は2018年～2019年にかけて、南北関係の改善と朝米国交正常化に向けた外交戦に乗り出した。トランプ大統領との歴史的な会談と『板門店宣言』など、まだ記憶に新しいであろう。

しかし、関係改善による朝鮮半島情勢の安定化、その後の社会主義強国の建設というプランは、2019年ハノイで散々に砕かれた。

先核放棄、という受け入れがたい条件を突きつけるアメリカ、一方的に破棄された軍事演習停止。朝鮮敵視政策の転換を前提とする関係改善のための話し合いを積み上げてきたものをちゃぶ台返しのように亡き者としたアメリカ。

平和と安定を望むが、朝鮮との約束の一つも守れなかった南。口を開けば『国連安保理決議違反』という足かせがある… 開城工団事業や金剛山観光など、制裁に何一つ触れないもの、決心一つで遂行できるものさえ、アメリカの顔色を伺い、すすめることもできなかった。

2021年、半島を取り巻く情勢の緊張化を緩め、国際的扶助の中で人民たちがベルトを締めることのないよう、強国を建設しようとする朝鮮は政策を大転換させる。

政治的スローガンではなく、実際の人民生活。地に足をつけた目標の提示。4～5年で収まるものではないという現実的な打算のもと、2035年プランともいわれる5か年計画×3プランを提示したのが党8回大会だった。(2021年1月)

一方的な査察を飲み込まず自主を貫く朝鮮に対し『ならず者』の烙印を押し、史上最強の経済制裁を加えるアメリカを中心とする勢力。経済制裁の中、自主を貫くための闘いを宣言し、自力更生の旗をもう一度掲げた朝鮮。

『まずは強くなってみないと分からない』。この決心から始まった『経済制裁』VS『自力更生』。これが2021年以降の朝鮮を取り巻くフェーズだ。

度重なる米日韓の軍事演習、人様の国の真隣で敢行される『斬首作戦』遂行のための核戦争演習。朝鮮の抑止力強化がなければ、何百、何千の戦争開始のきっかけがあったのだろうか。

新型コロナによる国境封鎖も相成り、2021年以降の朝鮮の5か年計画遂行は難航した。穀物生産の問題、建設の問題、軽工業の発展に関する問題。人民生活向上を目標とし、経済建設を推し進めながらも、厳しい状況は続いた。3年目の2023年。やっと光明が見えてくる。その秘訣はインフラの整備とボトムアップにあった。慢性的な農業の厳しさは灌漑の弱さにあった。それを克服する。物流の弱さを克服するためのインフラ整備、地方の開発など、『史上最強の経済制裁』の中、耐えることが難しい平壤以外の地方都市に対しての**集中的な人的財的投入は功を制し、5か年計画遂行**というものが現実的に達成可能な数値として見えてきたのだ。

残り2年。

朝鮮は、2023年をターンオーバーの年と総括し、新たな攻勢に出た。目標は社会主義強国。時限は2035年。5か年計画3回転のうち、1回点目の勝算を左右する2024年の新しい闘いに朝鮮は決起したのである。

そのような背景の中、対南政策が大転換される。80年にわたる分断の歴史を経て、南北対立の歴史が総括された。朝鮮の対南政策は『急転換』されたものでは決してない。そして、『**武力統一(赤化統一)**』を**目指したものでもない**。現実足をつけ、『**まずは強くなってみる**』という明確な目標のもと、今ある朝鮮半島の現実を示したのみであろう。

朝鮮半島情勢は今年もめまぐるしく変わる。

青商会も地に足をしっかりつけ、何よりも同胞社会と子どもたちのために汗をかき、未来創造のための道を切り開くべく、『主導』と『ハブ』としての役割を果たしていきたい。そしていつでも、朝鮮半島情勢に耳を傾け、『なぜ?』を紐解いていく過程でブレない自身の柱を持つことが大事であろう。

(中央青商会)

さらに詳しく知りたい方はYoutubeをご覧ください。
朝鮮大学校李柄輝教授の解説動画はこちら



地方会長紹介

福島・埼玉

FUKUSHIMA/SAITAMA



■ 福島新会長

玄 龍徳 【ヒョン リョンドック】

1988年5月生

AGE 鳶工

職業

福島県いわき市

出身地

福島青商会

所属地域



- ①好きな言葉/座右の銘 ②会長を受けることになったエピソード
- ③思い出深い青商会活動など ④今期の決意

①失敗は成功のもと

②前会長が引退するにあたって福島青商会がなくなるかもと危機を迎えまして。先輩方達がいままで残した大事な青商会を無くす訳には行かないと思い「会長をやります。」と宣言しました。

③【KK フェスタ】 社会人になってから初めて同胞の子供達と接点をもてとても貴重な経験になりました。

④今期の福島は初めてやるって方が大半なのでまず幹事達が1つになりイベントを話し合って1つでも多くイベントをこなして行きたいと思っています。あと、まだ福島に同胞がいるので声をかけて人員を増やしたいともっています。



■ 埼玉新会長

崔 龍哲 【チェ リョン Chol】

1982年11月生

AGE

接骨院・鍼灸マッサージ院

職業

埼玉県

出身地

中部支部

所属地域



- ①好きな言葉/座右の銘
- ②会長を受けることになったエピソード
- ③思い出深い青商会活動など ④今期の決意

②昨年8月に尹致力直前会長より打診をいただきました。今までやってきた青商会活動を最後、自分らしくやっていいよと応援されました。

③2017年4月に青商会代表団としてウリナラに行きました。そこで全国の青商会の方々と接して多くのことを学び濃い日々を送りました。その経験がとても役立っています。

④2013年埼玉民族フォーラムの年に青商会に入会しあの当時の青商会先輩方のようにかっこいい青商会、輝きと伝統ある埼玉県青商会を子供たちの為にそして埼玉同胞のために今期は、青商会幹事が一人一人が力をあわせて活動していきます。

運動を主導する青商会

ハブとしての役割を全うする青商会



日本朝鮮青年商工会中央幹事会 第27期第1回会議が行われました。

2024年1月27日、第1回中央幹事会が盛況に行われました。

中央青商会・金敏寛会長、崔炳琓直前会長、文英進副会長をはじめ、中央常任幹事と地方会長、幹事長たちが一堂に会し、今期の方針とKYC運動要綱を満場一致で採択しました。

今期、青商会は『新時代イオ!』をスローガンに掲げ、同胞たちを繋ぎ中央から地域に至る全青商会を繋ぐことで、同胞社会のきずなを繋げる『ハブ』となり、民族教育支援事業を中心とする運動全般を『主導』することで、青商会の伝統を立派に引き継いでいきます。

中央・金正浩東北ブロック長は、東北の未来を繋げる役割を今の青商会世代が請け負っているとし、この使命を立派に果たすことで東北同胞社会の未来をまもっていくということを、

広島・許光秀会長は、伝統ある広島青商会をさらに強化することで、中四国ブロックの活性化を図り、とくに民族教育・ウリハッキョを守る青商会の役割を立派に果たしていくことを、

京都・李昇龍洛南地域会長は、洛南地域で新時代の青商会モデルを作り、全国青商会のトップランナーとして走り切ることで、最優秀取りに行きますと宣言、

九州・金淳幾幹事長は、ALL九州ハナロのスローガン掲げ九州全土を取り巻く空気を一変させ、地域を活性化することで同胞たちと子どもたちの未来を輝かせる青商会を作っていくと決意を披露しました。

討論の内容に感化され、会場からは拍手喝采。全役員たちが奮起して立ち上がり、KYC運動を盛り上げていく一致がなされました。

その他、ウリ民族フォーラム2025、2026の公募に関するお知らせなどがあり、総連中央から挨拶がありました。

中央幹事会の後、中央・国際統一部が主催した勉強会がありました。金弘樹ブロック長、文泰勝アドバイザー、元日本JC東アジアアライアンス構築委員会副会長を務めた渡邊芳樹さんが各々発言し、共生・共創・共働を目標に国際交流事業を広げていくこと、JCなど日本の青年団体との輪を広げていくこと、各地方地域で国際交流事業のポジションを高め、人脈を広げていくことで、未来の同胞社会を立派に支えてくれる友人・仲間を獲得していく旨が強調されました。

会議後、オーラムで行われた懇親会は、直前会長の乾杯の音頭から始まり、文英進副委員長のあいさつ、安剛志民族教育支援部長（青商会学園実行委員長）からの呼びかけ、各ブロック長とブロック役員たちの紹介があり、青年行進曲で幕を閉じました。

『新時代イオ!』、このスローガンが同胞社会を席卷し、運動を大いに盛り上げる主導とハブの役割を果たすカッコいい青商会の姿を整え、第28回中央総会を目指す志で一致した一日でした。

討論者たちの様子



金正浩
東北ブロック長



許光秀
広島・会長



李昇龍
京都・洛南地域会長



金淳幾
九州・幹事長



MEETING

第1回 中央幹事会



SOCIAL
GATHERING